ニューズレター

第30号
2011.3

「北海道の生物多様性」イラスト：永田信行

環境省 自然環境局

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

〒403-0005　山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1
ホームページアドレス　http://www.biodic.go.jp/
TEL 0555-72-6031　FAX 0555-72-6032/6035

生物多様性センターからのお知らせ

●COP10サイドイベント開催

生物多様性センターは、平成22年10月に名古屋市で開催された生物多様性条約締約国会議（COP10）において2つのサイドイベントを開催しました。1つはESABII(East and Southeast Asia Biodiversity Information Initiative)の、もう1つはアジア太平洋生物多様性観測ネットワーク（AP-BON :Asia-Pacific Biodiversity Observation Network）のそれぞれ目的と活動を、生物多様性条約ＣＯＰ10参加者に向けて、広く紹介するために開催されました。どちらのイベントも、様々な国から多数の参加者があり、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

それぞれのサイドイベントの詳細は、ESABII についてはhttp://www.biodic.go.jp/gbm/esabii/report2.html を、AP-BONについてはhttp://www.biodic.go.jp/gbm/gbon/news7.html をご覧ください。こちらのウェブページには、サイドイベントで実際に使用した資料も掲載しており、ダウンロードしていただくことができます。

●「いきものみっけ」について

平成20年度から実施してきた「温暖化影響情報集約型CO_2削減行動促進事業」愛称：「いきものみっけ」が、平成22年度で一つの区切りを迎えます。「いきものみっけ」では、3年間で10万件を超すいきものの「みっけ報告」をいただき、生物多様性への関心、理解の手助けになっていると考えられることから、ウェブサイト（ http://www.mikke.go.jp/ ）は継続することといたしました。みなさん、これからも「いきものみっけ」にぜひご参加ください。

●第13回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）を開催しました

平成22年10月21～22日、愛知県名古屋市において、第13回自然系調査研究機関連絡会議（以下、「NORNAC」）を開催しました。

1日目は愛知教育大学の芹沢俊介教授によるご講演とNORNAC構成機関における調査研究・活動事例の発表会を行い、2日目は構成機関間の連絡会議を行いました。1日目の発表会には、構成機関の他にも、都道府県の自然保護担当者や行政機関関係者、研究者、地元の市民等、約170名の方にご参加いただき、調査研究に関する情報交換を行いました。

講演要旨及び調査研究・活動事例発表会要旨は、NORNACホームページ（http://www.biodic.go.jp/relatedinst/rinst_main.html）でご覧いただけます。

●書籍「日本の生物多様性」を作成しました

本書籍は、COP10において、我が国の生物多様性の現況を国内外の参加者に理解してもらうために作成したものです。日本列島の生態系や動植物の特徴を整理するとともに、豊かな生物多様性のもとに育まれた人々と自然との関わりを、豊富なカラー写真と図表で分かりやすく紹介しています。

本書籍はＡ４サイズで日本語と英語の２ヶ国語表記となっており、(株)平凡社から市販されています。

●冊子「日本の動物分布図集」を作成しました

環境省では、1978（昭和53）年度から自然環境保全基礎調査の一環で、我が国に生息している野生動物の分布情報を調査してきました。本分布図集は、これまで分布図を作成した実績のある動物3,304種類（哺乳類116種、鳥類364種、爬虫類96種、両生類64種、淡水魚類326種、昆虫類1,184種、陸産及び淡水産貝類1,154種）について、それぞれの分布図を分類群別にとりまとめたものです。

第２部では、近年個体数が増加していると思われるニホンジカや、分域が北上していると思われるクマゼミ等の分布域の変化を年代別に示しており、生物の分布が確実に変化している様子を見ることができます。

「動物分布図集」の販売は行っていませんが、PDFファイルについてはこちらのサイトで入手できます。 http://www.biodic.go.jp/kiso/atlas/

生物多様性センターに収蔵している標本の紹介　第20回

和名/アマミノクロウサギ
学名/*Pentaragus　furnessi*
RDBカテゴリー/絶滅危惧IB類（EN）
分類/ウサギ目ウサギ科

（アマミノクロウサギ本剥製　当センター所蔵）

●日本固有のウサギ

アマミノクロウサギは、世界中で鹿児島県の奄美大島と徳之島にしか生息していない、日本固有種のウサギです。私たちの身近にいるペットのウサギ（カイウサギ）と比べると、耳と手足が短いため、ずんぐりした体型に見えます。また強力な爪を持ち、急斜面を上り下りすることができます。生態的にも形態的にも原始的な特徴があることから「生きた化石」とも呼ばれており、大正10年に動物としては初めて国の天然記念物に指定されました。

●アマミノクロウサギの思い出

（写真提供　環境省那覇自然環境事務所）

筆者が初めてアマミノクロウサギを観察したのは、今から10年前の徳之島です。私は地元の方が運転するジープに乗り、夜の林道を走っていました。地元の方の「ウサギ！」という突然の声と急ブレーキに驚いた私は、ヘッドライトに照射された黒くて丸い物体を見て、目を疑いました。「これがウサギ？」ノウサギと似ているようで、何か違うのです。その物体は、眼だけが異様に光り、車に驚く様子もなく、しばらくの間そこでじっと私たちを見ていました。私は、その物体がススキ原に向かって歩き出すのを確認するまで、ウサギどころか生き物だとさえ思えなかったほどでした。普段は無表情な地元の方も、珍しい奴に会えたとにっこり笑ったのを今でもよく覚えています。

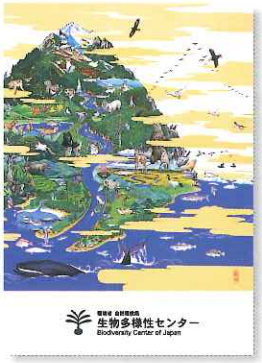
●卯年にウサギを思う

今、人間が離したマングースや、人間の手から離れた飼い犬・飼い猫が、アマミノクロウサギの脅威となっています。そして自動車による交通事故死も近年大きな問題になっています。生物多様性センターに収蔵しているアマミノクロウサギの標本も、そのほとんどが交通事故死か、マングース、野良イヌ、野良ネコなどの外敵に襲われ、死亡したものです。太古より息つがれてきた静かな森の中で、今日も懸命に生きるウサギ達のことを思わずにはいられません。

参考文献：ホライゾン編集室(2000) 生命めぐる島・奄美. 南日本新聞社, 鹿児島. 139pp.
浜田太（1999）時を超えて生きるアマミノクロウサギ. 小学館, 東京. 80pp.

パンフレットとリーフレットが新しくなりました

生物多様性センターでは、本ニューズレターも含め、現在6種類のパンフレット類を発行しております。このたび、パンフレットとリーフレットが新しくなりました。パンフレットでは、「調査」「資料収集」「情報提供」等生物多様性センターの業務について、リーフレットでは、平成21年度に新しくなった常設展示室について詳しく紹介しています。冊子版を生物多様性センターで配布しているほか、ホームページからもご覧いただくことができます。
(http://www.biodic.go.jp/pamph_list/index.html)



施設紹介

常設展示室

生物多様性センターでは、生物多様性に関する「？」へのヒントが詰まった展示室を設けています。生物多様性の保全の大切さをわかりやすく伝えます。

小さなお子様も楽しむことのできる展示もあります

「生物多様性ってなんだろう？」
クイズを通して、学んでみよう！

ゲーム感覚で生物多様性を学ぶことのできる「いきものつながりフィールド」

図書資料閲覧室

生物多様性に関する図書や各種文献等を収集・保管しています。これらの図書や文献資料は、図書資料閲覧室や展示室ロビーで閲覧することができます。

展示施設・図書資料閲覧室利用案内

- 開館時間　午前9時～午後5時
- 休館日　冬季期間（11月～4月）の土日祝日
  年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料　無料
- 図書資料のご利用は平日のみとなります。
- 団体でご利用される場合は事前にご連絡をお願いします。
- 図書資料の貸し出しは行っておりません。

交通案内

- 富士急行河口湖駅または
  中央高速バス河口湖駅下車
  タクシーで約10分
- 中央自動車道河口湖ICまたは
  東富士五湖道路富士吉田ICより
  約10分（富士スバルライン沿線）

表紙のイラスト

各地域の生物多様性を１枚の絵巻にして表現した「つながりんぐ」より抜粋。全体は、展示室にてご覧いただくことができます。北海道から沖縄まで、300種類以上の動植物が描かれており、日本の列島の生きものたちと人のくらしがつながっています。